558　肝硬変患者腰椎骨塩量の経年的変化と治療による影響－Dual photon absorptiometryによる検討－

正木恭子、塩見　進、宮澤祐子、城村尚登、植田　正、池岡直子、黒木哲夫、小林絢三（大阪市大、３内）
小橋肇子、岡村光英、越智宏暢（同、核医学）

肝硬変患者の骨塩量の経年的変化を検討する目的で骨塩量の経時的測定を行い、同時に活性型ビタミンDの投与による効果も検討した。肝硬変３８例（男性２１例、女性１７例）を対象に第2，3，4腰椎の骨塩量（ＢＭＣ）をNorland社製DBD-2600により経時的に測定した。さらに、肝硬変１９例（男性７例、女性１２例）において活性型ビタミンDによる治療を行い経時的変化を測定した。年平均変化率は男性非治療群-0.8%、治療群+2.8%であり、女性非治療群-3.5%、治療群-1.6%であった。ＤＰＡ検査を用いることにより、肝硬変患者の骨病変の経年的変化の検討みならずその治療効果の判定にも有用であった。

559　腎性骨異栄養症(ROD)における副甲状腺摘除術(PTX)前後の骨シンチと骨塩量の比較検討

小橋肇子 (淀川ｷﾘｽﾄ教・放) 岡村光英、越智宏暢 (大市大・核) 杉村武嗣 (同・泌)　小野山靖人 (同・放)

PTX前後で、骨シンチと骨塩量の経時的変化を観察した。　対象は血液透析患者29例。PTX前と、PTX6ヵ月、1年後の骨シンチ所見を全身骨高集積型(Ⅰ型)、高background activity型(Ⅱ型)、ⅠとⅡの中間型(Ⅲ型)、骨正常集積型(Ⅳ型)に分類し、骨塩量(橈骨、頭部、全身、腰椎)と比較した。　PTX後の骨シンチはⅠ型(26例)からⅢ型への変化は21例で、その中で4例がⅣ型へ、3例がⅡ型へ変化した。骨塩量はⅠ型が4部位ともm-2SD以下が多く、Ⅲ型に比し低値であった。Ⅳ型は平均以上、Ⅱ型はm-2SD以内例を多く認めた。PTX後は、骨への異常集積の軽減に伴い骨塩量の増加が認められ、RODの病態の把握に、骨シンチと骨塩定量は有用であった。

560　腎透析例における骨シンチグラフィ：腎性骨・関節疾患に対する診断法としての検討

伊藤　和夫、古舘　正従（北大　核医学）、谷口　光太郎、南谷　正水、松野　正（北海道泌尿器科記念）

腎透析例では長期透析に伴う骨・関節疾患(ROD)の発生が問題となっている。腎透析23例に施行した171回の骨シンチグラフィを分析し、ROD診断に対する有用性を検討した。

Tc-99m-HMDP20mCi静注2時間後に全身像、四肢および腰部のスポット像を撮像し、骨／軟部組織集積比（B/S比）を算出した。全身像は関節および肺あるいは消化器などの臓器分布から5型に分類され、2次性副甲状腺機能亢進症と診断された3例(18%)はいずれも骨以外の臓器に集積を示す3型であった。B/S比と血清PTH、Ca値およびP値との相関は示されなかった。

骨シンチグラフィは腎透析例におけるROD診断の一助として、血清データとは異なる骨代謝を反映した診断法として有用であることが確認された。

561　透析患者の骨シンチの経時的変化の検討

林郁子（総合太田病院　腎センター）、滝沢勝右（同RI）、舘野円（群大　核医学）、佐々木康人（東大放）

透析患者の骨シンチの１～５年に渡る経時的変化とその臨床検査所見、臨床症状、透析年数、患者年齢との関連を検討した。

対象は、当院の透析患者40名で、１～５年の経過で^{99m}Tc-MDPの全身骨シンチを撮影した。11例は悪化傾向を示したが、22例は明らかな変化を認めず、７例は改善傾向であった。骨シンチの変化と透析年数、透析歴、検査値（PTH-C 、β_2 M、Al、ALP ）、臨床症状との明らかな関連は見出せなかった。

透析患者の骨病変は、未だ解決できない大きな問題であるが、経時的にみて不変、改善を示した症例を認めた症例の検討は今後の治療に有用であると考え報告した。

562　骨シンチによる血液透析患者の骨変化の長期経過観察

岡村光英、越智宏暢(大阪市大　核),小橋肇子、金子良美、河辺譲治、辻田祐二良、小野山靖人(同　放)

骨シンチにて2年以上経過観察し得た血液透析患者の、内科的・外科的治療後の骨変化を検討した。

長期血液透析患者48例(男性27例、女性21 例)について、2年～8年に亘り(2年16例、3年14例、4年7例、5年4例、6年5例、7年1例 、8年1例）骨シンチ像の変化を観察した。骨シンチ上、頭蓋骨を主とし骨全体に高集積を示した二次性副甲状腺機能亢進症例の副甲状腺摘出術後は、骨集積程度が著明に減少し、background activityが上昇し続ける例やほぼ正常骨集積像を呈する例がみられた。カルシトニンやビタミンDパルス療法においても治療効果を判定し得た。腎移植後の骨変化や転移性石灰化の検出,増減の把握にも骨シンチは有用であった。

Presented by Medical*Online